

平成 29 年度新潟大学 COC+社会人学び直し WG 高度実践看護師等育成事業

地域看護 CNS からのコンサルテーションによる事例検討会 「事例から保健師固有の支援技術を学ぼう！」 を開催しました

社会人学び直し WG 「高度実践看護師等育成事業」では、社会人の学び直しの機会を提供し、新潟県における高度実践看護師等の地域包括ケアを担う保健医療人材の育成と定着化を図るとともに、雇用の創出や拡大を目的に、高度実践看護師等の啓発普及、人材育成プログラムの検討・開発等を行っています。今回、新任期にある保健師を対象に、実践事例の検討と地域看護 CNS からのコンサルテーションにより、保健師の実践能力の向上を図るとともに、地域看護 CNS の実践活動および専門的能力活用のお場とすることを目的として事例検討会を開催しました。

1. 目的 主に新任期にある保健師を対象に、参加者同士の対話や地域看護 CNS からのコンサルテーションを通して実践能力の向上を図る。また、地域看護 CNS の活動について啓発の機会とする。
2. 日時 平成 29 年 6 月 10 日（土） 13 時 00 分～15 時 30 分
3. 場所 新潟大学医学部保健学科 C203 演習室

4. 内容

- ・ 新任期にある保健師が、地域保健活動の実践において困難を生じている事例を素材にして、事例検討会を実施する。
- ・ 事例提供者の事例を素材とし、参加者は事例検討を通して、参加者同士の対話や地域看護 CNS のコンサルテーションから、自らの支援内容を振り返り、経験知から保健師固有の支援技術を学ぶ。

5. 講師

事例提供者：新潟市西区役所健康福祉課 保健師 若井菜摘 氏

助言者：上越市健康づくり推進課 保健師（地域看護 CNS） 小林奈緒子 氏

ファシリテーター：新潟大学大学院保健学研究科 教授 小林恵子

6. 実施体制

主催：新潟大学大学院保健学研究科（担当者 小林恵子 齋藤智子 成田太一 堀田かおり）

共催：新潟県 公益社団法人新潟県看護協会 全国保健師長会新潟県支部 新潟県職員保健師会

後援：全国保健師長会新潟市支部

7. 参加者

参加者：30 名

8. 実施概要

事例発表者から地域保健活動の実践において困難を生じている母子の1事例について素材の提供がされ、ファシリテーターの進行のもと、参加者同士の対話と地域看護 CNS のコンサルテーションを得ながら事例への支援について具体的な検討が進められました。

検討メンバー等フロアから事例の状況や支援方針について活発な質問や意見交換が行われ、事例をとおして地域保健活動の中で、対象の強みをふまえ、支援ニーズを明らかにしながら支援を行っていくことの重要性を確認しました。



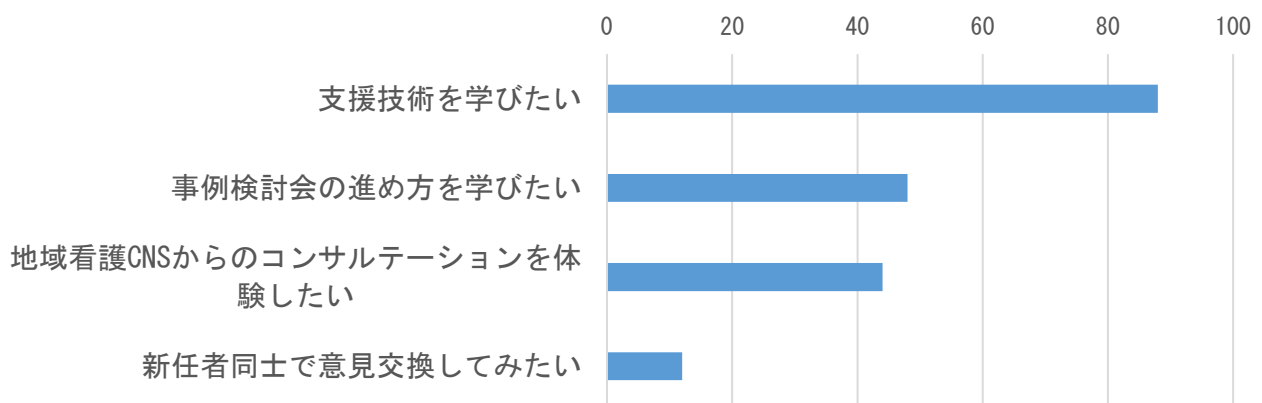
9. 参加者アンケート結果（一部抜粋）

1) 参加者の所属

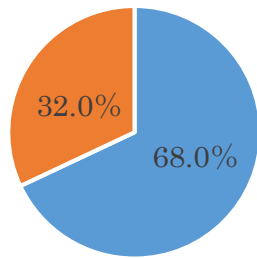
所属	人数（名）
新潟県	6
新潟市	11
市町村（新潟市を除く）	6
学部・大学院学生	3
新潟大学教員	4
計	30

検討メンバーの保健師経験年数
平均 1.9 年

2) 参加動機（複数回答）

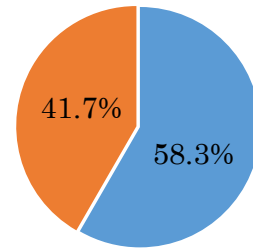


3) 参加しての感想



■ とてもよかった ■ よかった

4) 今後も事例検討会に参加してみたいと思うか



■ とても思う ■ 思う

5) 参加しての学び (自由記載 抜粋)

- ・自身の支援の振り返り、事例について丁寧に検討できてよかったです。
- ・日々の業務の中で流れてしまっていることが多かったと実感しました。ニーズや課題に目が行きがちでしたが、今後は対象の持つ強みを意図的に伝えていきたいと思いました。
- ・私がこの事例を担当したら（第一子の3歳児健診後にどのように関わるか考えたとき）、相談先を紹介して終了としてしまったのではないかと思いました。母と第一子だけでなく、きょうだい、家族との関係にも目を向けること、母のできることにも目を向け、こちらの気持ち（心配している気持ち）も伝えていけると、より良い関わりを作るきっかけになると気付きました。
- ・事例に対してどのように対象者のニーズを明らかにし、アプローチしていけば良いか具体的な支援技術を学ぶことができました。
- ・何を対象者が求めているのかを深掘りし、自分の中で関わる理由を持つことの大切さを学びました。検討会の進め方やケースの支援方法について学ぶことができました。
- ・多くの人から意見をもらうことで、より対象者に合った支援をすることができると実感できました。支援ニーズから考えていくこと、対象者ができることから入っていくことが大切であると学びました。
- ・自分も同様の事例を担当し困っていたので、とても勉強になりました。どういう情報がアセスメントする際に必要なのかや、関わり方の工夫など自分が思いつかないことを沢山学ぶことができました。
- ・自分にも相手にも怖がらずに向き合っていきたいです。また、自分の普段のアセスメントの未熟さを感じたので、一つ一つ丁寧に考えて関わりながら勉強していきたいです。
- ・先輩保健師のアセスメントや支援技術を学ぶことができました。自分のケースを振り返って、今後の活動に活かしていけるような良い機会でした。
- ・職場で事例検討する時間もあれば良いなと感じました。
- ・就業年数の近い方で集まって事例検討会をする機会があまりないので、参考になりました。

6) 日々の活動の中で、地域看護 CNS からコンサルテーションを受けたいと思う内容

- | | |
|-----------------------|----------------|
| ・保健師と他職種との連携について | ・困難事例対応ケースについて |
| ・高齢者への支援、難病患者への支援について | ・生活習慣病（対策）について |

7) 全体を通しての意見・感想（抜粋）

- ・様々な方向からの支援方針を学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・とても参考になる事例検討会でした。参加できてよかったです。
- ・先輩方の意見や必要な情報などこれからの活動に活かしていける内容が沢山ありました。
- ・新任期の保健師の方もしっかりと自分の意見が発言できており素晴らしいと思いました。自分自身の仕事への考え方も見直すよい機会でした。ありがとうございました。
- ・このような、大学で検討会などしている大学が少ないので続けてもらえればと思います。
- ・今後も検討会に参加させていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

おわりに

今回、就業5年以内（特に1年目、2年目）の保健師さんを中心に、多くの新任期の保健師さんから参加していただき、本当にありがとうございました。

行政で働く保健師は、子どもの虐待、精神障害、高齢者の孤立やセルフネグレクトなど、背景が複雑で解決困難な問題に対して、本人・家族・地域へのアプローチが求められています。新任保健師であっても、知識・技術・経験が十分でない中で、そのような事例に訪問や相談の場において一人で立ち向かって有効な支援策を講じていく責任があります。また、支援の中で不可決とされる多職種連携においても、保健師としての自立性、専門性を有してこそ、専門職種間の信頼が生まれ、連携・協働が発展していくものと考えます。

入職後、すぐにそのような専門性と責任を果たさなければならない新任期の保健師にとって、事例検討をとおした対話により、自己のアセスメント技術や支援内容を振り返るとともに、先輩保健師や地域看護 CNS からの実践知を学んでいく機会是不可欠であると考え、この事例検討会を企画しました。予想通り、多くの方からご参加いただき、活発なご意見をいただきました。また、アンケートからも事例検討会継続の必要性を実感したところです。

最後に今回、貴重な事例を素材として提供いただいた若井菜摘さんに深く感謝申し上げます。また、このような取り組みをとおして、地域看護 CNS の活動を理解し、活用していただける機会になればと期待しております。

続けて、「新任保健師事例検討会」第2弾を**平成30年1月20日（土）**に開催します。

「一般保健師（就業6年以上）事例検討会」は**平成29年9月2日（土）**です。

皆さん、是非ご参加ください。

一緒に「保健師の専門的固有の技術」を習得しましょう！

小林 恵子・齋藤 智子・成田 太一・堀田かおり